

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 6 2018年7月26日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

「ゆきとどいた教育をすすめる北海道・東北集会」開催

7月22日、「ゆきとどいた教育をすすめる北海道・東北集会」が開催され、北海道各地から、そして東北3県から合わせて41名が参加しました。

高教組の尾張委員長から開会あいさつがあり、「今年の集会は、北・東北ブロックの高校生の修学保障問題も含め、本日の集会として開催します」との趣旨説明がありました。

最初、「ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会」の総会がありました。新保事務局長から2017年度の活動報告や署名集約数の報告があり、今年度は、必要に応じて自治体訪問すること、えがお署名の集約で約6400筆になったこと、教育全国署名8万筆を目標に12月1日までとりくむこと等、2018年のとりくみ方針が提案され、承認されました。

その後、全教の波岡執行委員から教材関係の情勢報告があり、文科省予算の教員定数について資料を使い、詳しい説明がありました。

そのあと、全教の波岡執行委員から教材関係の情勢報告があり、文科省予算の教員定数について資料を使い、詳しい説明がありました。

《とりくみ経験交流》

◆南幌高校の小林さんから、平成33年に南幌高校が募集停止になること、7月10日に「存続を求める集会」を開催し、参加者が60人も集まったことの報告がありました。地域から高校がなくならないように南幌町とも懇談を行ったそうです。町内の呉服屋さんとのつながりで、教育全国署名を集めてくれるとの話もありました。

◆士別南小学校の中村さんから、小学校1年生の

授業が3時間では難しいです。授業内容が多すぎて、3・4年、5・6年と高学年になるにつれ、だんだん子どもの顔が曇ってきます。先生方も安心して働ける状況ではありません。上川教組は20数名ですが、対話することが大事で、職場での声かけを大事にしてとりくみます。

◆新婦人からのメッセージ紹介

『えがおお署名』は、2000筆を越え、教育問題に対する関心は高いです。6月に企画された教育座談会には、子育て中の会員10人が参加し、予想以上に参加者が多く、子どもの学校生活を通して感じていることをおしゃべりする場が求められていると実感しています。今、新婦人では、中学校道徳教科書採択にむけて、教育委員会へ要望書を届けるとりくみを強めています。

他に道退教の阿部さん、高教組の北村さんからも発言がありました。

《北海道・東北の修学保障について》

◆宮城高教組の高橋委員長

全国で最初に給付型奨学金を始めたのは宮城ですとの紹介がありました。東日本大震災があり、日高教・全教で交渉し、国から予算がついて始まったとのことでした。

◆福島高教組の小林委員長

私の勤務する福島工業高校は、校舎内に「頭上



全教波岡中央執行委



注意」「立ち入り禁止」の張り紙があり、廊下も安心して歩けません。修理は来年以降です。福島県に就職する大学生等の奨学金返還を支援する制度ができています。

◆秋田高教組の今野副委員長

教育全国署名の数は最近減っていますが、議会請願や修学保障のとりくみは、すすんでいるかもしれません。2015年には35人以下学級の前進を求める意見書が採択され、2014年から高校生等奨学給付金がスタートしています。

◆道高教組の松野副委員長

高橋道政は、「子育て王国」を掲げていましたが、生活関連や就学保障で道独自のものはありません。「北海道未来基金」として、企業の寄付で海外への挑戦する学生10数人に補助金を出している程度です。市町村の方が努力している状況なんです。



大通公園での街頭宣伝・署名行動

に30数名参加！

集会終了後、参加者の多くが大通公園での街頭宣伝・署名行動に参加し、別の集会に参加していた新婦人の方も駆けつけてくれました。40分程度の行動でしたが、署名が77筆集まり、参加者も元気の出る行動となりました。参加者の皆さん、ありがとうございました。

7・25 中央行動で文科省に「えがお署名」9万1461筆を提出

7月25日、全教、教組共闘連絡会、子ども全国センター、憲法・教基法全国ネット主催の「えがお署名提出行動」が文科省前で開催されました。

参加者の代表が、全国から集まったえがお署名9万1461筆を文科省に提出し、教育予算増額の要請を行いました。道教組・高教組からも参加しています。

